

今年の大花火大会で打ち上げられた長岡花火—新潟県長岡市の信濃川河川敷で2日



真珠湾に鎮魂の長岡花火

終戦70年 来年8月15日打ち上げ

新潟県長岡市は、終戦70年の来年8月15日、日米開戦の舞台・真珠湾(米ハワイ州ホノルル市)で、伝統の「長岡花火」の初の打ち上げを計画し、両市が合意した。

米軍の空襲に遭った長岡市と、旧日本軍の攻撃を受けたホノルル市が、戦没者の鎮魂と平和を願い、夏の夜空に大輪の花を咲かせる。

長岡花火の始まりは1879(明治12)年。戦時中に一時中断したが、市街地の約8割を焼失し、市民1400人以上が亡くなった長岡空襲(1945年8月1日)の犠牲者慰霊と復興を祈って47年に復活した。毎年8月2、3日に行われる。

日米の開戦に反対
山本五十六出身地

両市の交流は、真珠湾攻

撃を指揮した旧日本海軍連合艦隊司令長官・山本五十六が長岡市出身で日米開戦反対論者だったこともあって、相互理解を深めるため2007年から始まった。12年には姉妹都市提携を結び、ワイキキ沖で花火を打ち上げた。

真珠湾での花火は、来年8月に両市で開く市民交流の記念事業の締めくくりとする計画で、詳細は今後検討するという。

長岡市内で今月2日にあった両市の「日米友好記念事業委員会」で合意した。

森民夫・長岡市長は「メッセージを持った花火で平和の大切さを伝えるのは長岡市の責任」と、取り組みの意義を強調した。ホノルル市のカーク・コールドウェル市長は「真珠湾で打ち上げる花火は歴史的な出来事になる」と歓迎した。

【湯浅聖一、写真も】